

平成29年7月6日(木)

中日新聞(朝刊) 12面

# 黒野清宇さん死去

86歳 書家、中日文化賞



中部を代表するかな書家で愛知教育大名誉教授の黒野清宇(くろの・せいじ)さん(本名・貞夫(さだお))さんが五日午前九時三十八分、老衰のため名古屋市長東区亀の井二の一七九の二の自宅で死去した。八十六歳。愛知県豊田市出身。通夜は七日午後七時から、葬儀・告別式は八日午前十一時から、名古屋千種区千種二の一九の一、いちやなぎ中央斎場で。喪主は妻の恵子(けいこ)さん。

愛知学芸大(現・愛知教育大)に在学中、故宮本竹逕(ちくけい)氏に師事。卒業後は地元の小中学校で教えながら平安朝の古筆、特に名古屋の関戸家に伝わる『関戸本古今集』を熱心に学び、二十五歳で日展に初入選。日展を拠点に、壁面に飾る大作を書く「大字かな運動」の一翼を担った。

一九九〇年代半ばから万葉集に関心を寄せ、歌人の故塚本邦雄氏らとの交流を通じて万葉仮名と漢字、かなを巧みに組み合わせた独自の融合美を確立。「かならしい優美さの中に、ますますおぼろげが發揮されている」と高く評価された。

二〇〇五年には、第三十六回日展に出品した「梅の花」で日本芸術院賞。主宰する「玄之会(げんしかい)」は書の振興に長年貢献し、一七年三月に愛知県美術館であった展覧会は四十五回を数えた。母校で長年、書道教育にも尽力し、〇八年には「かな書の追求と書道教育への貢献」で第六十一回中日文化賞を受けた。

# 黒野清宇さん死去

86歳 かな書家、中日文化賞



平成29年7月7日(金) 中日新聞(朝刊) 30面

中部を代表するかな書家で愛知教育大名誉教授の黒野清宇(くろの・せいじ)さん(本名・貞夫(さだお))さんが五日午後九時三十八分、老衰のため名古屋市長東区亀の井二の一七九の二の自宅で死去した。八十六歳。愛知県豊田市出身。通夜は七日午後七時から、葬儀・告別式は八日午前十一時から、名古屋千種区千種二の一九の一、いちやなぎ中央斎場で。喪主は妻の恵子(けいこ)さん。

平安朝の古筆、特に名古屋の関戸家に伝わる『関戸本古今集』を学び、二十五歳で日展に初入選。壁面に飾る大作を書く「大字かな運動」の一翼を担った。万葉集に関心を寄せ、歌人の故塚本邦雄氏らとの交流を通じて万葉仮名と漢字、かなを組み合わせた独自の書風を確立した。

主宰する「玄之会(げんしかい)」は書の振興に長年貢献し、今年三月に愛知県美術館であった展覧会は四十五回を数えた。二〇〇八年に「かな書の追求と書道教育への貢献」の功績で第六十一回中日文化賞。

この三年ほどは、万葉歌人・山上憶良の「貧窮問答歌」が題材の連作を発表。今年一月、愛知県美術館ギャラリーで開かれた改組新第三回日展東海展への出展作で完結させた。関係者によると、一週間ほど前から体調を崩し、自宅で療養していた。